

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」天白校			
○保護者評価実施期間	2025年11月 1日 ～ 2025年12月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2025年12月 1日 ～ 2025年12月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月14日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	バラエティーに富んだ支援プログラムを用意できる。	公認心理師、5年以上の経験のある児童指導員、教員免許保有者などの職員がそれぞれの特性を生かした支援プログラムを作っている。	より支援プログラムを充実させるために、社内外の研修に積極的に参加し、支援スキルの向上を目指す。
2	安心してのびのびと療育を受けることができる。	担当する児童指導員が固定しているので、関係性を深めることができ、小さなお子さんも安心して療育を受けることができる。	どの指導員も充実した支援を行うことができるように、情報共有や研修を行っていく。
3	様々なイベントを行っている。	事業所内での季節ごとのイベントに加え、お買い物イベントのように外に出かけていくイベントも開催している。	事業所の外に出かけるイベントをより充実させることにより地域との交流を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流の推進。	徐々に回復してきているものの、コロナ禍により、支援中に待合に残る保護者の方が少なくなり、顔を合わせる機会が少なくなってしまった。	保護者参加型のイベントを充実させることにより交流を図っていく。
2	園との連携を図る。	保護者を通しての情報提供はあるものの、支援方法などの情報共有を図ることはしていない。	保護者から要望があれば、積極的に担当者会議等を開催し情報共有していきたい。
3	地域交流の推進。	買い物イベントで地域の店舗を利用することはあるものの、地域の他の子どもと交流する機会は設定していない。	回覧板で、地域の行事は把握できているので、療育の時間に合わせることができる場合は積極的に参加したい。

公表日

2026年2月14日

事業所名

こどもサポート教室「きらり」天白校

利用児童数

9人（8家族）

回収数：

8

	チェック項目	はい	どちら ともい えない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	0	1	0	隣のスペースが直ぐ隣にあり、パーティションでしか仕切られてないため、隣の音やモノに注意がいつてしまう子供がいる。	支援時間をずらすなど集中しやすい環境を設定していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5	1	0	2	人事異動が頻繁にあるのが気になりました。	職員が定着するように努力します。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	2	0	0	例えば靴を履くのに地べたに座わりこむ必要があるのは不便。靴履き専用の腰掛け台が必要では？	椅子を用意しました。ご利用ください。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	7	1	0	0		
適切 な支 援の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7	1	0	0	スタッフの指導力にバラつきがありすぎる。指導力がないスタッフは子供に振り回されていて見るに耐えない。	ミーティングでの支援内容の検討や研修などにより、支援力向上に努めていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8	0	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	7	1	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	1	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5	3	0	0	もう出来ることは2-3回の反復に止め、次々と新しいことにチャレンジさせて頂きたい。	プログラムに変化を持たせ、マンネリにならないようにしていきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	3	2	2	特に求めてないです。	外部との交流は図っていけるように計画しています。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	1	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7	1	0	0		

保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング（※5）等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	2	0	4		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	8	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	1	1	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	3	1	2		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5	2	0	1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	2	3	0	3		
非常時等の対応	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	0	0	1		
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	0	0	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	1	0	4		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	0	0	1		
満足度	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3	1	0	4		
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	8	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	8	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	0	0	0	とても満足しています。	今後も満足していただけるよう努力していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」天白校					公表日	2026 年 2 月 14日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースを確保している。集中できるように療育スペースはパーテーション等で区切られている。	パーテーションで区切っているだけなので、声や動きが隣室に漏れてしまう。利用時間を調整するなどの対策をとりたい。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で必要とされる職員配置を行っている。	職員数は適切であるが、利用者が希望した日時に利用できるように、もう1人職員を増員したい。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		カーペットや壁面表示等により、活動スペースが分かるようになっている。	建物の構造上、出入りに段差があり、利用者の状況によっては介助が必要である。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		担当、時間を決めて教室内の清掃を行い清潔な環境にしている。	建物が老朽がしていることもあり、適宜補修を行う必要がある。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		壁で仕切られて腰があり、利用者の状況によって使用している。	特に問題なし。				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		各業務について職員間で共有し改善している。	特に問題なし。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表の内容をミーティングで共有し、改善を図るようにしている。	改善できるものから改善に取り組んでいる。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングや連絡スペースなどを活用し、意見交換を行っている。	特に問題なし。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	社内で内部監査を行い、業務改善につなげている。	必要に応じて第三者による評価も取り入れたい。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事例検討会、テーマ研修などの社内研修や、社外の研修に参加している。	特に問題なし。				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		待合に掲示されている。	特に問題なし。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントシートや支援記録、フィードバック時の保護者との意見交換などから作成している。	支援計画が利用者のニーズに合ったものになっているか常に意識していく。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		検討会議や支援計画の回覧により、適切な支援計画かどうかを検討している。	適宜支援計画の改善を行っていく。				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画の内容は共有され、計画に沿った支援となるよう意識している。	常にフィードバック時の聞き取りなどを基に改善に努める。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		子どもの状態について多角的な視点でアセスメントすることができている。	聞き取りした内容も含めて確認していく。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		必要な項目が設定しており、利用者の実情に応じた支援内容が設定されている。	地域支援・地域連携についても必要に応じて検討していきたい。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々のミーティングで支援内容について振り返りを行い活動プログラムの改善に生かしている。	新しいプログラムをアイデアを出し合い取り入れていきたい。				

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	利用者の実情に応じて、プログラムの内容を変更している。	常に利用者の実情に合った内容になっているか検討する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	必要に応じてイベントを開催し、小集団で取り組むプログラムを実施している。	特に問題なし。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎日のミーティングで支援の確認を行っている。	より連携した支援を実施するようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	毎日のミーティングで支援の振り返りを行い、改善点を話し合っている。	特に問題なし。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	確実に支援記録を記載し、支援内容の検証を行っている。	特に問題なし。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	必要に応じて、支援計画の見直しを行っている。	モニタリングや普段の聞き取りをより充実させていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	会議には、児発管と担当指導員が参加し、意見交換を行っている。	今後も連携を密にしていこう。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	必要に応じて対応している。	要望があれば、保護者の意向を汲みながら適切に対応していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	進学を意識した支援やイベントを実施している。	関係機関との情報共有や相互理解を図ってきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	必要性は感じているが実施できていない。	必要に応じて連携を図るようにしていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	研修の場などで助言を受けている。	特に問題なし。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	時間の調整がつかないため未実施。	未就園の利用者から希望があれば実施したい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	支援のフィードバック時に、発達の状況や課題について共有するようにしている。	特に問題なし。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	フィードバック時に、どのような支援が効果的であったかなどの情報を提供している。	必要に応じて研修会の実施を検討する。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に丁寧に説明するようにしている。	問い合わせ等にも丁寧に対応していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	支援計画について、意向に合ったものになっているか確認している。	日々内容の検討を行うようにする。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		説明し、同意を得ている。	より丁寧な説明に心がける。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		フィードバック時に、話し合いの中で行っている。	必要に応じて面談の場を設定していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	イベントに保護者も一緒に参加することで交流を図っている。	特に問題なし。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れについて職員間で共有し対応策を立てている。	適切な対応に心がけていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HPやSNSでの発信を行っている。	定期的な更新を行うようにする。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		適切に管理している。	特に問題なし。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		職員間で障がいの特性を共有し対応している。	特に問題なし。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の活動には協力している。	フリー開校日を設けるなど、事業所を知ってもらう機会を作る。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成し、訓練を実施している。	マニュアルや訓練実施の内容を周知するようにしたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、定期的に訓練を行っている。	計画や訓練の内容を周知するようにしたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		フェイスシートや聞き取り、アンケートなどで確認している。	特に問題なし。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		イベント等で飲食を行う場合にはアレルギーフリーの素材を用意している。	特に問題なし。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画のもと、研修訓練を行っている。	特に問題なし。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害時の対応について掲示し、周知している。	周知が徹底するように努めたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ミーティング等で共有し、防止策を講じている。	今後も予防に努めていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図って入る。	特に問題なし。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に身体拘束適正化について丁寧に説明し、同意を得ている。	特に問題なし。